＜来年度都立片倉高校への入学・野球部への入部考えている中学生と保護者の方へ＞

～「ワクワク野球」　片倉野球部へのお誘い～

片倉高校野球部監督の宮本です。片倉野球部は 2012 年夏、西東京大会ベスト 4 進出、東海大菅生、東亜学園を破り準決勝進出、選手たちは神宮球場で躍動し、甲子園の背中がほんの少し見えた時でした。その後 2018 年夏、西東京大会ベスト 8 、国学院久我山、都立日野を破り、準々決勝、王者日大三高を終盤まで 3 点差でリードし追い詰めるも、代打逆転満塁ホームランを打たれて敗れた試合は今でも昨日のことのように思い出します(日大三高は甲子園ベスト 4)。

この 10 数年の間、都ベスト 16 以上 8 回、いわゆる強豪校とも互角の戦いをしてきました。早く敗れたチームでも実力的には 12 年、18 年のチームと互角、またはそれ以上と思われるチームがありました。また強豪校との対戦を前に、接戦で敗れることがここ数年続いています。彼らの力を十分に発揮させられなかった原因は何かと考え続けています。

私自身、片倉での 15 年間の指導は毎年試行錯誤の連続で、少しずつでもより良いチームを目指し、変化しています。そして今のチームは私の 40 年以上の高校野球の経験の中でも自慢のチームに成長してくれています。

毎日成長する自分にワクワクしてほしい、練習が楽しくて仕方がないそんなチームを目指しています。練習を見てもらえば、チームの雰囲気は他のチームと少し違うかもしれません。練習中に笑顔が見えます。仲間同士で話し合ったり、アドバイスをしあったり真剣です。本当にごくまれに私から大声で怒鳴られることもありますが、選手は私の言葉を素直に聞いてくれます。

私たち 5 人の顧問・スタッフはそれぞれ、いろいろなステージの野球を経験してきています(プロ大学野球、高校野球)。その経験を生かしながらも、いろいろな新しい指導方法学びながら、今までの常識にとらわれずどんなアドバイスがこの選手の成長につながるか、悩みながら指導しています。
「中学校時代、真面目な努力をする選手がなぜかうまくならないのは、努力の方向が間違っているからだ。何が彼の成長を阻害しているのか」こんなことをいつも考えています。またチームとしてのトレーニング、ピッチャーのトレーニングを定期的にトレーニングコーチの指導を受けています。野球の動きにつながるトレーニングの動きにこだわってもらっています。また技術面では外野守備、走塁について元日本ハムコーチの嶋田さんの、捕手について元ヤクルト・巨人コーチの秦さんの指導も受けました。メンタルトレーニングの高畑先生の講習も何度か受けました。冬場には 10 回にわたり専門のコーチからヒップホップダンスの指導も受け、選手たちは本当に楽しそうでした。身体のケアは近隣の病院の理学療法士の先生が定期的に来てくれるようになりました。

練習試合の相手も都内、他県の特徴ある強豪校のチームが多く、相手チームから学ぶことも多くあります。こんな環境のもと多くの方に支えられ選手たちが日々成長しています。例えば現在のエース、ジョンソン・マーカス・太一は入学当初は 110km 出るか出ないかのアーム投げの投手でしたが、ホームを改造し、体を作り、精神的にも強くなり 140km の評判の投手に成長してくれました。最初は私や舟山先生のアドバイスを素直に聞いているだけの選手でしたが、次第に自分でホームなどを工夫するようになりました。「どうしてそうしたのか」と聞くと、堂々とその理由や、動きの違いや自分の感覚につ

いて話してくれます。舟山先生も「高校生が短期間でここまで成長するんだと驚いた」と言ってくれました。私は府中工業の監督の時、1年の秋に仕方なく内野から投手にコンバートした高江洲拓哉が3年次にプロ野球中日ドラゴンズに指名されるまでになったことや、片倉でも18年ベスト8のエース紙田龍也も2年になって、外野からコンバートし、急成長したこと(現在大学でエース格で活躍しているとのこと)などたくさんの事例を見てきています。中学校時代チームの補欠だったような選手が片倉で成長し、自信を持って活躍してるのを見るのは指導者として大きな喜びです。そしてそんな選手が多数いることは片倉の自慢であり、私たちの指導法に自信を与えてくれます。私は今年で65歳になります。60歳退職後も再任用教員としてやってきましたが今年度でそれも終了します。「最近になって初めて気づいたこと」「昔はできなかったけれど今だからできること」がどんどん出てきます。今ならばもっと良い指導ができるはず、そんな気持ちが最近強くなってきました。学校からも来年度以降、部活動指導員として残してくれるとのこと、また他の先生からも「支えるので引き続き監督を続けてください」という本当にありがたい言葉をいただき、ここ片倉で私が求めてきた高校野球を完成させたいという気持ちになりました。気力体力が続く限りがんばります。私と一緒に片倉野球をすすめてくれる多くの選手の入部を心から待っています。

2022年6月28日　宮本秀樹

※私や片倉の実践や考え方は同封した各種雑誌等の記事のほか、「監督と甲子園6」(日刊スポーツ出版社、藤井利香)の中で紹介されています。また一昨年、自費出版で「『甲子園の心を求めて』と私」と題した本を出しました。東大和高校で佐藤道輔監督から学んだこととその後府中工業、片倉での私の実践や悩みなどを正直に書きました。お読みになりたい方はご連絡ください。残部まだありますのでお分けいたします。